

改版履歴 2022年3月10日初版

継続支援

A社

中小企業で専任のセキュリティ担当者を置くことは困難。「自社のDXやデジタル化を推進する役割の人材が、セキュリティに関しても十分な知識を持つことではないか」←「DX with Security」
管理部門の人材も含めたセキュリティスキル教育が「プラスセキュリティ」の考え方。

ITリテラシー（最低ITパスポートレベル）が十分でない担当者が、技術的なセキュリティ対策を行うことは困難。

全般

例えば、ネットワーク知識として、IPアドレス、ポート番号の概念を理解しないで、ルータ、ファイアウォール、UTMの機能、設定を検討することは困難

「守りの事業戦略」では、ITリテラシー＋セキュリティ基礎知識。「攻めの事業戦略」では、DXの推進として、次世代IT技術の活用技術＋セキュリティマネジメント試験レベルの知識が必要

この事業でのセミナー等の内容で、資格取得に偏重させないとしても、ITパスポート、情報セキュリティマネジメント試験レベルの知識やスキルが習得できる内容になっているか？

個々の企業のレベル、ターゲット層に応じた教材、コース分けを想定しているか？

中小企業のビジネスを発展させるためには、DX化が必要で、DXを推進するためには、Security対策が必要である。そのために、中小企業はどんな人材を育成すべきかという観点ほしい。

p.5

「守りの事業戦略」として必要性を指摘しているが、「攻めの事業戦略」としての「DX with Security」の観点が見えない。このレベルまで実施内容に含められないか？

Lv2～Lv4？であれば、一定レベルのITスキルも必要と思われるが、どのような内容が含まれるのか？

p.10

「極意」と合わせることで、レベルを上げるとのことだが、どのような内容が加わることで、対策の観点やポイントを理解できるようになるのか？

p.13

VisuMeはITスキル標準に準拠して、組織の人材が持つべきスキル全般を診断するものだが、どの部分を利用するのか？

p.14

事務局メンバーが、Digitalリテラシーを有することを客観的に示せる指標はあるか？

p.16

ホームページは、Facebookなのか？

p.19

SNSは、Facebookなのか？

p.22

「フレームワーク」とは？

戦略の「DXとサイバーセキュリティの同時推進」、「DX with Cybersecurityの推進」が、カリキュラムに展開されているように見えないが、どのような内容を想定しているか？

p.23

テキストサマリー（PDF）の原本は、EPUB,htmlで作成すること。

p.27

「セキュリティ担当者として、自社のDXやデジタル化に貢献できる」とあるが、中小企業が求める人材は、「自社のDXやデジタル化を推進する役割の人材が、セキュリティに関しても十分な知識を持つことではないか」←「DX with Security」の考え方

p.29

想定セミナー、ワークショップのテーマでは、「極意」を越えたレベルには見えないが。

いきなり「セキュリティ関係の知識強化」となっているが、ITパスポートレベル、基礎情報技術者レベルの知識を持たずに理解できるか？

p.36

「サイバーセキュリティフレームワーク」は、具体的なドキュメントはどの何か？

p.37

EPUBは、電書協EPUBガイドラインに準拠すること

p.40

HPへの掲載の原本は、EPUB、htmlで作成すること

ホームページ上での動画形式によるアーカイブ配信の想定されているか？

p.69

「セミナー1 役割を知る、セミナー2 取巻く現状」で、DXやデジタル化が理解できるか？
ITリテラシーの理解が十分でない状態でセキュリティ対策の担当者になれるか？

p.71

「中小企業の情報セキュリティガイドライン第3版」、IPAセキュリティプレゼンター用資料、既存の各社セミナーと比較して、どの部分が充実したコース、教材のレベルを想定しているか？

B社

全般

仕様書を要約しただけのレベルの提案書になっている

仕様書に記載された提案依頼内容に沿った具体的な実施内容が記述されていないため、技術評価はできない。